

JLIA-C-1

高 圧 ホ ー ス

昭 和 57 年 5 月 制 定

昭 和 63 年 12 月 改 正

平 成 11 年 3 月 改 正

平 成 18 年 12 月 改 正

(社)日本エルピーガス供給機器工業会

東京都港区虎ノ門 2-5-2 エアチャイナビル

TEL : 03-3502-1361 FAX : 03-3593-0758

はじめに

当工業会には団体基準として、供給機器一般の A 分類から B 圧力調整器、C ホースそしてガス栓の D 分類までの全部で 4 分類 12 の団体基準がある。これらの基準は主として、供給機器類の維持管理について規定したものであった。

平成 7 年度、D-1 の「ガス栓」を大幅に見直し、歴史等を含めたガス栓の全体像が把握できる内容に編集し直したことから、翌年の平成 8 年度には B-2「圧力調整器点検基準」と B-4「一体型自動切替式圧力調整器点検基準」を一冊にまとめ、同様の内容で見直しを行い、B-2「圧力調整器」として出版した。

この見直しの際には、ハスの実型圧力調整器の実物が入手できず、古い不鮮明な写真を基に CG（コンピューターグラフィック）により復元するという苦労もあった。

今回技術委員会の平成 9・10 年度事業として、高圧ホース維持管理基準の見直しが計画されたことから、ガス栓及び圧力調整器に倣って C-1「液化石油ガス用継手金具付高圧ホース維持管理基準」を C-1「高圧ホース」に改め、この小冊子で L P ガス用高圧ホースの全体が理解できる内容に全面的に改めることにした。

そこで、高圧ホースに関する歴史を調査すべく、手始めにこれまで各関係団体が発行した団体の歩み等の資料に目を通し、高圧ホースに係る歴史の叙述がないかピックアップを試みた。

そうすると、昭和 54 年 5 月に発行された(財)日本エルピーガス機器検査協会の 10 周年史に、昭和 40 年 11 月から始まった高圧ホース金具連結管の自主検査に関するこんなくだりがあった。

「この背景（上記自主検査開始のこと）には容器のツインセットが一般化、集合管使用が増えてきたということが指摘できる。さらに容器と配管部への接続や容器と容器の連結用に従来用いられていた銅管による連結方式（ピッグテール）が取り扱い上不便であるという理由から高圧ホース金具連結管が急速に普及、これがまたツインセット方式を一段と伸長させる結果となった。ツインセットの普及から、緊急の保安問題として当然この連結部が浮かび上がって来た。ところが、もともと油圧業界を代表する高圧ホース金具工業会には、全協連が直接介入することはできず、L P ガスサイドからホース金具業者を同会に加入させ、同工業会内部に L P ガスホース金具部会を発足させたという経緯がある。（原文引用）」

結局、参考材料となったのはこの記述のみであった。

高圧ホースアセンブリに係る技術については、当初油圧用ホースアセンブリメーカー団体である高圧ホース金具工業会からの技術を導入する必要があると、L P ガス業界とは異なるところで規格等が進められていたようである。その後昭和 39 年に上記 L P ガスホース金具部会は正会員メーカー 17 社で、日本ホース金具工業会を設立している。

そんなことから日本ホース金具工業会を訪問し、L P ガス用の高圧ホースに関する古い資料はないか調べさせて貰った。しかし、時代の推移とともにここでも当時の詳細な資料は処分されていて、時代の流れを痛感させられる結果となった。

L P ガス用高圧ホースはその製造開始から約 35 年余が経過した。一般消費用高圧ホースにおいては当時と比べ、ホースや加締金具の材料等の品質が格段に向上し、加締技術の進歩と併せて、これ以上改良の余地が考えられないほど製品として熟成したものとなった。その軌跡をたどるべく、圧力調整器と同様に高圧ホースも歴史を紐解くと、そこには多くの先達・先輩方々の労苦の後が忍ばれ、頭の下がる思いであった。

この小冊子が、高圧ホース関係者を始め、より多くの L P ガス事業者の方々の御参考になれば、誠に幸いである。

最後に本小冊子を作成するに当たり、御協力頂いた関係委員の方々に深く感謝する次第である。

以 上